令和８年度　第１回美術館運営協議会会議録

１ 日　時　　令和８年７月31日(金)
午後2時00分～午後3時50分

２ 開催場所　豊田市美術館　講堂

３ 出 席 者
〔委員〕
浅井一広　長谷川博子　中西暁美　正村美里　高橋綾子　岡田耕一　渡辺陽子　（以上7名）
欠席:加納里美　吉留亜弥　村瀬麻衣
〔事務局〕
成瀬文浩
高橋秀治　塚田恵理子　都筑正敏　鈴木俊晴　成瀬美幸　大原右子　大柳良輔　佐崎望
（以上９名）

４ 会議の経過
委嘱状交付、館長あいさつ、委員自己紹介、職員紹介の後、事務局から豊田市美術館運営協議会の概要について説明した。
その後、委員の互選により、会長に正村委員を選出、会長が高橋委員を職務代理に指名した後、会長あいさつ、その後、議事録署名人として、会長自らを含む2名(高橋委員)を指名した。続いて、令和７年度の実績を報告した後、各委員より意見を聴取した。

５ 会議内容
(1)令和７年度開催展覧会の実績報告について
年報№30(令和７年度)の実績を用いて説明した。
(2)企画展「没後50年　髙島野十郎展」実績報告
(3)企画展「櫃田伸也　通り過ぎた風景」実績報告

委員:
子ども向けのワークショップが以前に比べて増えてきたというところが大変興味深かった。小学生や小さい子どもにとって親しみを持てるような美術館になることを期待している。

委員:
私自身、公民館的な施設である交流館に勤務している。個人的にも美術館が好きで、休日に訪れることがある。特に、絵本の原画展などには小さな子どもやファミリー層が多く来館し

ている。美術館と交流館では規模や役割が違うので、同じようなことをする必要はないと思うが、子どもの頃から美術館を身近な場所として感じてもらうことは大切だと思う。
交流館にも小さな子どもが多く来ており、絵本などをきっかけに施設を身近に感じてもらっている。美術館でも、子どもや家族が「行ってみたい」と思えるような企画があるとよい。
また、小学生だけでなく、中学生などを対象とした講座もあるとよいと思う。

委員：
子ども向けの講座や見学の機会が増えていることは興味深い。数年前から子ども向けの情報発信もされているので、今後もそうした取組が増えるとよい。

職務代理：
髙島野十郎については、以前、福岡で作品を見たことがあるが、当時は地元で大切にされている作家という程度の認識だった。今回、時間をかけて全体像を見ることができ、大変興味深かった。また、出身校についても今回初めて知った。図録には作家の背景や当時のことについて詳しく調査した内容が掲載されており、非常に興味深い。また、作家の作品をきっかけとして別の作品や物語を連想させるような文章もあり、単なる展覧会記録にとどまらない面白さがあった。今後さらに調査が進めば、作家の若い時代についても新しいことが分かってくるのではないかと思う。
櫃田伸也展については、地域において長く活動してきた作家について、満を持して開催された展覧会だったと思う。作家本人が会場に足を運ぶ機会もあり、晩年の新作が展示の最後に置かれたことも非常に印象に残っている。また、講演会にも参加したが、単なる思い出話ではなく、一人のアーティストとして作家をどのように捉えるかという話で、とても興味深かった。講演を聞いた後で図録の文章を読むと、より理解が深まった。
髙島野十郎展、櫃田伸也展では、講演会、ギャラリートーク、ワークショップ、図録などが連動しており、展覧会を見た後にも改めて図録を読み返すことができる。非常に充実した取組だった。
また、企画展に合わせてカフェで提供されるデザートなども、展覧会を楽しむ要素の一つになっていると思う。

委員：
地域との関連という点では、昨年度から地域の祭りとの連携が行われており、美術館の前庭に祭りの山車が集まるなど、美術館と地域との橋渡しとなる取組があった。資料には掲載しにくい内容かもしれないが、こうした活動も美術館と地域との関係を示すものとして、何らかの形で記録に残してほしい。
また、ワークショップについては、子どもたちが実際に手を動かして作品や素材に触れる機会を、ぜひ増やしてほしい。
美術館で定期的に開催するだけでなく、地域の施設などへ出向いて実施することもできるのではないか。美術館の職員や作家が地域に出向き、実際の体験を提供するような取組があるとよい。

企画展については専門的なことは分からないが、こうした事業を行政として予算化して実施していることを考えると、展覧会の経費や作品購入費、関連事業の予算などについて、どのように考えているのか気になった。

事務局：
予算については、それぞれの事業について必要な経費を計上し、観覧料や図録等による収入も見込みながら事業を実施している。展覧会単体ですべての経費を賄うという考えではないが、展覧会に関する収入は一定程度を確保しながら運営している。作品購入については、コレクション形成の方針に基づき計画的に行っている。

委員：
昨年度の二つの展覧会について、最初は作家についてあまり知らなかったが、実際に見てみると非常に良かった。今回、豊田市美術館で紹介してもらえてよかったと思う。私は、ポスターを見て「行ってみたい」と思うことが多い。ポスターのデザインがよいと、それだけで展覧会への関心が生まれる。今回のポスターも非常に印象的だった。
また、子ども向けの企画について、以前開催された布団を使った企画が非常に印象に残っている。子どもは手を動かすだけでなく、身体全体を動かしたい場合もある。美術館では「走ってはいけない」「静かにしなければならない」と注意する場面が多いが、身体全体を使ってもよい展示であれば、子どもを連れて行きやすい。特に、元気な子どもを持つ親にとっては、そうした企画があると美術館に行きやすくなると思う。

会長：
展覧会において、現代美術を中心とする美術館の特色を生かしながら、コレクション展示と企画展を組み合わせていた点が面白かった。一人の作家を一つの部屋で見せる展示など、展示室の使い方にも工夫が感じられた。また、作家の作品を単に年代順に並べるだけではなく、資料などを組み合わせることで、作家の創作過程を想像できる展示になっていた。
一方で、教育普及活動については、やればやるほど来館者に喜ばれるため、事業がどんどん増えていく傾向があると思う。しかし、職員数には限りがある。今後は事業を増やすだけではなく、これまでの活動を振り返り、何を残し、何を見直すのかという選択も必要ではないかと思う。

委員：
以前、髙橋節郎館で開催されていたコンサートが非常に好きだった。最近は少し情報が少ないように感じるので、今後もぜひコンサートを開催してほしい。

事務局：
来年の3月にはコンサートをやる予定である。開催時期が近づいた段階で、広報等により案内する。

職務代理：
今日、正面から入った際に屋外幕が目に入った。美術館の石の色や窓のデザインとも調和しており、非常に印象的だった。この美術館は建物そのものを目的に訪れる人も多いと思うので、建物や前庭を含めた空間の活用も大切だと思う。
以前は前庭でマルシェなどを開催することに少し違和感があったが、現在では周辺施設と連携して多くの人が集まる場になっている。2 日間で非常に多くの人が訪れたイベントもあり、前庭を地域に開かれた場所として活用していることは評価できる。

委員：
子ども向けの事業について、最近は自分の意見を表現することが苦手な子どもも多いと感じる。ワークショップを通じて、「自分を出していい」「自分の考えを表現していい」と感じられるような場をつくってほしい。美術館だけでなく、他の会場に出向いて実施する事業も含め、子ども向けの取組を増やしてほしい。

委員：
アンケートの中に、作品のガラスへの反射についての意見が複数あった。自身の交流館にも市民の作品を展示するスペースがあり、ガラスの反射によって作品が見にくくなることがある。美術館ではどのような工夫をしているのか。

事務局：
髙島野十郎展では、照明の角度などを調整し、できるだけ反射を抑えるようにした。ただし、展示室の天井高、スポットライトの角度、作品の大きさ、アクリルやガラスによる額装など、複数の要因があり、完全に解消することが難しい場合もある。所蔵作品については今後も低反射のアクリル等について、予算との兼ね合いを考えながら少しずつ導入していきたい。

事務局：
今年度から教育普及を担当する職員が増え、学校との連携や子ども向けワークショップの充実を進めている。以前開催した、身体を使ったワークショップのような企画についても、今後さらに検討していきたい。
美術館で実施する教育普及事業については、学校で行っていることをそのまま行うのではなく、「美術館だからこそできることは何か」を考える必要がある。学校現場の経験を持つ職員とも相談しながら、ワークショップを検討していきたい。

会長：
学校教育では、最終的に作品を評価する必要があるが、美術館では「正解がない」ことを大切にできる。子どもが何を感じたか、何を見つけたかを安心して話せる場所として、美術館を活用してほしい。

委員：
一方で、自由に表現するだけではなく、技術や基本的な方法を学ぶことも大切だと思う。自分の好きなように表現することと、基本的な技術を身につけることの両方が必要ではないか。

事務局：
学校現場の経験を持つ職員とともに、美術館でしかできない教育普及とは何かを考えながら事業を組み立てていきたい。

会長：
本日は、昨年度の展覧会を中心に、さまざまな意見をいただいた。
髙島野十郎展、櫃田伸也展については、それぞれの作家について長年蓄積してきた調査研究を基礎としながら、作品だけではなく、資料、講演会、ギャラリートーク、ワークショップ、図録等を通して、多面的に作家を紹介していた点が非常によかったと思う。また、作家本人の話を直接聞くことができたことについても、展覧会の理解を深めるうえで大きな意味があった。
一方で、今後の美術館運営を考えるうえでは、子どもや若い世代へのアプローチが重要である。子どもが美術館を身近に感じ、安心して自分の考えを表現できる場所として、美術館を活用してほしい。ワークショップについても、単に数を増やすのではなく、美術館でしかできない体験とは何かを考えながら進めることが大切である。
また、限られた人員の中で事業を実施していくため、これまでの活動を振り返り、継続するもの、発展させるもの、見直すものを選択していくことも必要だと思う。
地域の祭りやマルシェ、交流館、学校などとの連携についても、美術館を地域に開かれた場所としていくうえで重要である。美術館の建物、前庭、カフェなども含め、豊田市美術館全体を一つの文化的な場として活用していくことを期待する。
本日の意見を今後の美術館運営に生かしていただきたい。

以上で協議事項を終了する。

会議録署名者

会長　正村美里

委員　高橋綾子